令和４年度シラバス（芸術）

学番２６　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	２	学年（コース）	２学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	MOUSA１　（教育芸術社）				
副教材等					

１　学習目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

２　指導の重点

①歌唱、リコーダー、ギター演奏・合奏の基礎を学ぶとともに演奏の喜びを体験させる。
②班別学習で仲間とともに協力して音楽を作り上げる工夫と喜びを体験させる。

３　学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6 7	歌唱 器楽 楽典 鑑賞	教科書 リコーダー ギター ＣＤ	歌唱 器楽 楽典 鑑賞	・十分な声量のための正しい姿勢と腹式呼吸法の練習「Ave　ria」「レット・イット・ゴー」「Caro mio ben」「花」「夏の思い出」合唱曲その他 ・器楽：リコーダー曲の練習、ギターの基本練習：構え方、チューニング、右手と左手の使い方、タブ譜の読み方と理解、「見上げてごらん夜の星を」「C-a-f-f-e-e」「第三の男」 ・楽典：「音名」「音符」「楽譜の見方と書き方」 ・音楽史①「古代からルネサンスまで」 ・鑑賞：音楽関連の映像作品鑑賞(世界の諸民族の音楽等)	5 5 9 6	・各種テスト（教科時間内にて随時） ・音楽への関心・意欲・態度
9 10 11 12	歌唱 器楽 創作 リズム 楽典 鑑賞	教科書 リコーダー ギター ＣＤ	歌唱 器楽 創作 リズム 楽典 鑑賞	・歌唱：豊かな声量で歌う「'O sole mio」「少年時代」「野ばら」「Memory」合唱曲、沖縄の音楽より ・器楽：リコーダー曲の練習、ギターとリコーダーの合奏練習、「ザナルカンドにて」ギターのコードネームの理解「冬から」「なごり雪」他。 ・創作:「メリーさんの羊」変奏曲制作 ・リズム、ヴォーカルアンサンブル曲 ・楽典：「コードネームと和声について」 ・音楽史②「バロックから現代まで」 ・鑑賞：音楽関連の映像作品鑑賞(オペラ、ミュージカル、音楽映画等)	7 9 8 6	・各種テスト（教科時間内にて随時） ・音楽への関心・意欲・態度
1 2 3	歌唱 器楽 楽典 鑑賞	教科書 リコーダー ギター ＣＤ	歌唱 器楽 楽典 鑑賞	・歌唱:豊かな声で歌うとともに表現を考える「ふるさと」「故郷」「夢みたものは」 ・器楽:合奏の表現を工夫する発展練習と発表を行う。 ・音楽史③「日本音楽史」 ・鑑賞：音楽関連の映像作品鑑賞(日本の伝統音楽、音楽映画等)	5 6 4	・各種テスト（教科時間内にて随時） ・音楽への関心・意欲・態度

計　70 時間（50 分授業）

4　課題・提出物等

単元毎に実技テストを実施するので、家庭でも可能な限り練習をしてください。

5　評価規準と評価方法

観　　点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組んでいる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それら働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期的な実技試験を行い評価します。また、課題にいかに積極的に取り組んでいるかという意欲・態度とともに、随時の提出物の内容も重要な評価の項目です。			

6　担当者から一言

授業では、実際に音を出し・歌を歌い・楽器演奏すること、また人の演奏に耳を傾けて表現を理解すること、が大切になります。諸活動に積極的に取り組み、、楽しみながら学習を進めて音楽の喜びを体験してください。

令和４年度シラバス（芸術）

学番２６　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	２	学年（コース）	２学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	日本文教出版　美術１				
副教材等					

１　学習目標

美術の幅広い創造活動を通して，美的体験を豊かにし，生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深める。

２　指導の重点

モチーフの観察力を養い、創意工夫により構想力を付けることを重点的に指導する。

３　学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	美術って何だろう？ 身近なものを描く	教科書 画材	「油絵」制作 ・静物画	Ｆ１０号キャンバスボードを使用し、油絵の具で、静物画を描く。	16	・自己表現の構成と工夫 ・完成度
6 7	光と陰影を描く		・自画像	Ｆ１０号キャンバスボードを使用し、油絵の具で、自画像を描く。	13	・創作の意欲と態度を評価の観点として作品を採点する。
9 10	日常を捉える 土から生まれる彫刻 塊から彫り出す 空間との対話	教科書 画材	「塑像」制作	粘土２．４kg を使用し、友人の頭像を制作する。	14	
11 12			デザイン 「平面構成」	造形要素「線」「色」のもつ共通感覚をもとに、平面構成する。	14	
1 2 3	自己を描く 線遠近法の誕生 日本美術の白と黒 美術史年表	教科書 画材	「デッサン」 鑑賞 「美術史」	人物モデルを鉛筆でデッサンする。 教科書を中心に西洋美術史、東洋・日本美術史を学習する。	13	

計　70 時間（50 分授業）

４　課題・提出物等

授業で制作した作品及び資料

５　評価規準と評価方法

観点	①美術への関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
評価規準	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫している。	創造的な表現をするために材料、用具を生かして表現する技能を身に付けようとしている。	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わおうとしている。
評価方法	粘り強く制作する態度、観察や構想による表現、製作方法・色彩および立体表現の理解を評価の観点として採点する。			

６．担当者から一言

・評価は、授業中の意欲や努力を大切にしてみます。結果だけではなく、積極的に取り組んでください。
・美術をとおして、自分を表現できる人間に成長して欲しいと思っています。

令和４年度シラバス（芸術）

学番２６　　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2	学年（コース）	２学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	書Ⅰ（教育図書）				
副教材等	くらしのペン習字（教育図書）				

１　学習目標

書道の幅広い活動をとおして，生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，書写能力の向上を図り，表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし，書の伝統と文化についての理解を深める。

２　指導の重点

①中学校国語科書写から高等学校芸術科書道への発展を図り、「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」、篆刻・実用書における表現力を養う。

②書に親しむ活動を通して、自己を主体的に表現する能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を育てる。

３　学習計画

学期	学習内容	月	時間	学習のねらい
1	一　書の世界にふれよう ■用具・用材 ■姿勢・執筆 さまざまな用筆・運筆による表現の工夫 二　漢字の書に親しもう ■書体の変遷 ■臨書から倣書へ 一　楷書の学習 1　孔子廟堂碑 2　九成宮醴泉銘 3　雁塔聖教序 4　顔氏家廟碑 5　牛橛造像記 二　行書の学習 １蘭亭序 ２風信帖 ３争坐位文稿	4	6	執筆法・用筆法や用具・用材について知り，書道の学習における基本的な事項を理解します。
		5	6	漢字の楷書の古典に基づく学習により，書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書古典を鑑賞し，それぞれの古典について，作者や時代背景などの知的理解をします。 基本的な点画や線質の表し方と，用筆・運筆の関係を，臨書学習により習得します。
		6	9	
		7	7	これらの活動を総合し，各古典の特徴を把握し表現する方法を学びます。 行書の特徴について理解します。 代表的な行書の古典を鑑賞し，作者や時代背景等に関する知的理解を経て，臨書学習により各古典の特徴を把握することにより，行書の基本的な用筆法を習得します。
2	三　刻字の学習 1　文字の選定 2　作品草稿作り 3　板に刻す 4　塗り・仕上げ	9	7	学習した楷書または行書の古典を題材とし、習得した技法を生かして制作を行います。
	四　篆書の学習 1　篆書（小篆）の特徴 2　泰山刻石の鑑賞と臨書 3　姓名印の制作 4　文字の選定 5　印稿作り 6　運刀 7　押印	10	6	篆書体を学び自分の姓名印を制作します。作品に押印します。

2	五　隷書の学習 1　隷書の特徴 2　隷書の名跡の鑑賞と臨書「曹全碑」 六　草書の学習 1　草書の特徴 2　書譜の鑑賞と臨書「真草千字文」	11	8	隷書・草書の古典に基づく学習により、基本的な用筆法・運筆法を習得します。
	七生活の中の書 硬筆・毛筆細字の学習	12	5	日常生活における実用書の基本的な形式や伝統的な習慣を学習し技法を習得します。
3	八仮名の書の学習 1　仮名の成立と発達 2　仮名の種類・万葉仮名 3　基本的な筆使い 4　平仮名 5　変体仮名 6　連綿 7　蓬莱切の鑑賞と臨書 8　高野切第三種・継色紙・升色紙・寸松庵色紙 9　全体構成の工夫 九漢字仮名交じりの書の学習 1　意図に応じた表現 2　自分の表現を目ざして 3　名筆に学ぶ表現の工夫 4　感動や思いを表現しよう 7　漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	1 2 3	6 7 3	我が国独自の文字である仮名について，成立過程と字源について理解します。 平仮名を中心とした上代様仮名の筆使いに慣れ，基本的な用筆法を習得します。 仮名の基本的な古典の鑑賞と臨書を経験し，俳句・短歌の散らし書きの制作を行います。 これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに，その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。 詩文，形式，用具・用材，構成など工夫し，漢字と仮名の調和の方法を考え，自分の感性をどのように表現していくかについて考えます。

計　70 時間（50 分授業）

4　課題・提出物等

各学習項目で作成した作品をその都度提出する。

5　評価規準と評価方法

観点	①書への関心・意欲・態度	②書表現の構想と工夫	③創造的な書表現の技能	④鑑賞の能力
評価規準	書の伝統と文化に関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫している。	創造的な表現をするため、書の基礎的な能力を生かして効果的に表現する技能を身に付けている。	日常生活の書の効用，文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、書のよさや美しさを味わうことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み、提出物の内容・提出状況、自己評価、制作カード、鑑賞カードなどから総合的に評価する。			

6　担当者からの一言

・静かな空間の中に身を置き、気持ちを落ち着かせて、自分を表現することを学んで欲しい。
・書は、用具・用材によって表現されるものです。道具を大切にして欲しい。